

ネブトクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

Aegus laevicollis subnitidus Waterhouse

選定理由

暖地性の種で、開発されやすい平地から低山地に生息し、産地が局所的である。また、生息地における個体数がきわめて少ない。

形態

体長は大顎を含め14~28mmの中小型のクワガタムシ。体色は黒色で上翅には9本の縦条がある。オスの大顎は細く、内歯が2本あり、基部近くの第1歯は大きい。第2歯は中央付近にあるが、小型の個体では消失する。メスの大顎は小さい。

国内分布

本州、四国、九州、対馬、種子島、屋久島。

県内分布

加賀市、小松市、能美市、金沢市、津幡町。

生態

平地から低山地に生息し、成虫は7月から8月に現れる。ブナ科やマツ類の樹液に集まり、樹木の低い位置から出ている樹液を好むようである。成虫は灯火にも飛来する。幼虫は、マツ類の朽ち木が赤枯れ菌に侵され、シロアリに分解された泥状化した腐朽部を食する。

生息地の条件

里山で、自然環境の良好な雑木林が保たれていることが重要である。

生存の危機

生息域が平地ないし低山地であるため、伐採や開発による生息環境の消滅が危惧される。小松市の生息地の一つは、大規模な伐採によって消滅した。(A)

特記事項

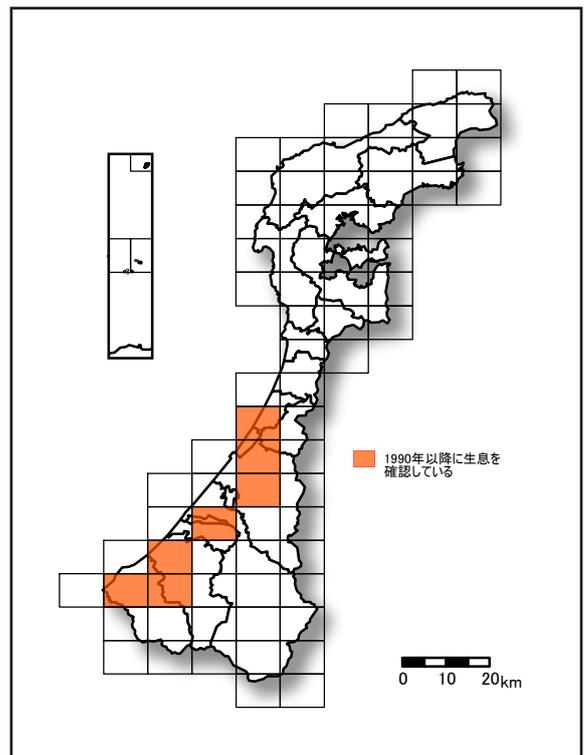
本種は、南方の離島に多くの亜種があり10亜種に分かれる。

参考文献

高羽正治 1998. コウチュウ目クワガタムシ科. 石川県の昆虫 : 146. 石川県自然保護課.



写真提供者: 富沢章



県内の分布